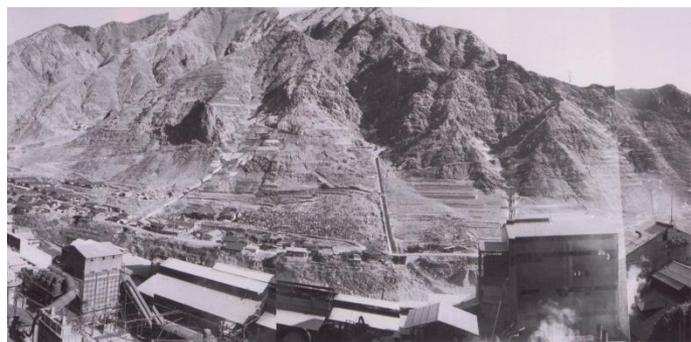


17 足尾荒廃地の緑の復元（足尾治山事業）

栃木県（日光市）



荒廃状況（昭和45年頃）

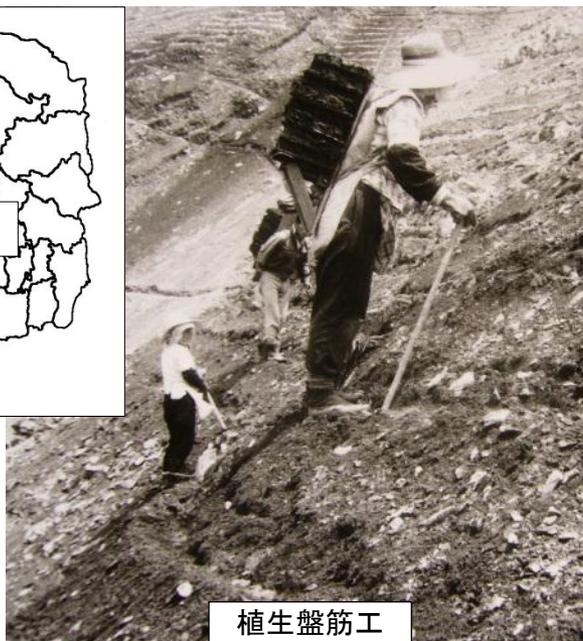


施工状況（昭和54年）



現在の状況

位置図



植生盤筋工

○所在場所

栃木県日光市足尾町赤倉 ほか

○施設・工法の概要

溪間工、山腹工、緑化工（航空実播工、植生盤筋工等を含む）、土留工など
民有林、国有林合わせて1,448haの緑が回復

○解説

足尾銅山周辺の荒廃地は、山火事や銅の精錬に伴う森林の伐採及び煙害により、昭和31年には約13,000ha（うち激甚荒廃地3,155ha）となり、荒廃した山腹からは土砂流出や落石が度々発生していました。

足尾の荒廃地の地表面は細かな石で覆われ、わずかに残った土砂も長年の煙害で酸性化し、養分はありませんでした。このため、当時開発された植生盤を用いた筋工を本格的に導入・改良し、これらの技術はその後の植生袋・植生土のう・植生マット開発の基礎となりました。また、当時の最新技術であったヘリコプターによる航空実播工を導入し、緑化技術の発展に貢献しました。

現在では、激甚荒廃地の相当部分が回復し、降雨後に河川が濁ることもほとんど無くなり、明治から大正にかけて多数発生した土砂流出なども見られなくなりました。

近年は、環境学習の場として、ボランティアとして多くの学生・企業が訪れ、植樹活動等を行っています。